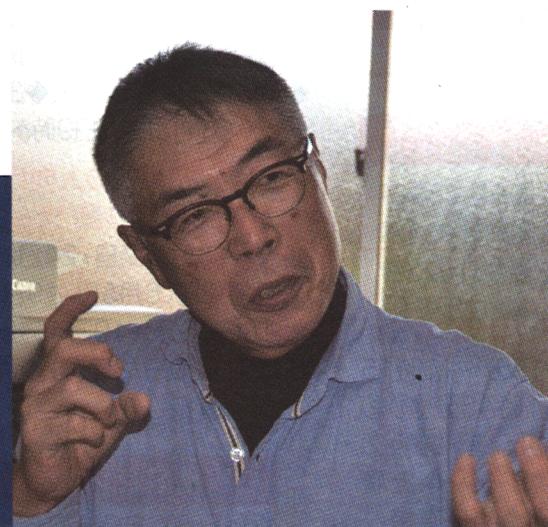
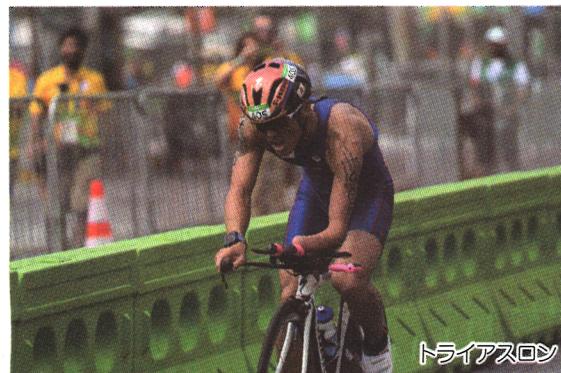


パラスポーツを支える プロフェッショナル

白根在住 パラスポーツ写真家

清水 一二さん

フォトサービス・ワン所属
(社)日本写真家協力会員(JPS)
(社)日本スポーツプレス協力会員(AJPS)
パラリンピック長野大会(1998年)、シドニーワーク(2000年)では国際パラリンピック委員会のメディアスタッフとして活動。



Q パラスポーツ写真家となったきっかけは

病院に勤務していた際、たまたま昼休みにリハビリ患者が車いすバスケットをしている場面に出会い、リハビリ中で辛いはずの彼らから逆に励まされ、その姿を写真に残すようになりました。

その後勤務先がチエアスキーの開発をしていた関係で、1994年に冬季リレハンメルパラリンピックへカメラマンとして同行したのがパラリンピックとの出会いです。それから13大会続けて撮影しています。

Q パラスポーツの魅力は どんなところでしょうか

その人らしい一瞬や、ドラマがあるところですね。ある砲丸投げの選手は、元々マグロ漁船に乗っていましたが、船が座礁したときに脊椎を損傷する大ケガをして、パラスポーツの選手になりました。応援席に地元の大応援団の大漁旗がはためいていたのを見て胸が熱くなる思いでした。



Q パラリンピックに向けての思い、そして区民のみなさんへのメッセージをお願いします

予選会から観客席を満員にしてほしいです。どんな競技でもよいので、一つ好きな競技を見つけてファンになってください。本物を見て触れて、ぜひ魅力を肌で感じてください。感動を共有しましょう!

Q とっておきの1枚を教えてください

シドニーパラリンピックの車いすバスケットボール(オランダ対ドイツ戦)で、キャットウォークから撮った写真です。関係者に頼み込み、わずか10分だけ認められ奇跡的に撮れた1枚です。

